

泉尾神社由緒記

神社名	泉尾神社
鎮座名	大阪市大正区泉尾二丁目十七番八号
御祭神 御神徳	住吉大神 寿命、交通安全、詩歌・文字の神 大國主神 事業の経営、土地の開拓、福德縁結の神 八幡大神 学問、文化、貿易、勝運の神
祭儀	夏祭 七月二十三日 例祭 十月二十三日
由緒	

元禄十一年泉州踞尾の人北村六右工門公許を得まして泉尾新田開拓に当り、事業の成功・土地の繁栄を祈願する為三軒家東の地に産土神社を奉斎されたのが創始であります。

爾来平穏な農村の氏神として崇敬されていましたが、明治四十一年村民の願いによって、茨木住吉神社に合祀されました。

大正七・八年、諸産業の興隆に伴い、泉尾も住民が激増、氏神信仰を生活の中心としていた当時の風習として、九条までの参拝は遠距離でありました。

ここで茨木住吉神社側として考究の末、昭和十一年内務省異側の認承を受け。現性の泉尾の地を買収。

石垣を築き「飛地境内神社」が創祀され昭和十七年、壮麗な檜造の社殿が造営されましたが、戦災の為灰燼と帰した。

昭和二十七年敬神の念篤い、氏子崇拜者の要望もあり復興に専念努力現在の総備州檜造の社殿が造営され、逐次石玉垣鳥居門社務所の建築植樹と、境内の内外も整備されて清新な景観を境域に、参詣者の数も増して、氏神神社として発展して参りました。

平成四年茨住吉神社の寛大な容認によって、神社本庁の承認を得て分離独立、大阪府の認承受け「宗教法人泉尾神社」が設立されました。

創祀以来、再度の変遷を経て泉尾の地の守護氏神として鎮座、泉尾地域の繁栄を招来された、神明の加護を敬仰し、朝夕に四季の祭礼に神前に、郷土と家族の平安を祈願してきたのであります。